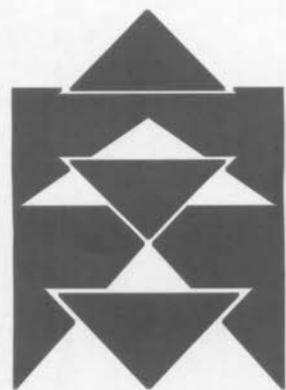


1992



# 高崎高校同窓会報

第 26 号 平成 4 年 11 月 30 日

発行所  
高崎高校同窓会  
〒370  
高崎市八千代町  
2-4-1  
TEL  
0273-24-0074



発行所

〒370

高崎市

八千代町

2-4-1

TEL

0273-24-0074

発行所

〒370

高崎市

八千代町

2-4-1

TEL

0273-24-0074

発行所



○表紙の写真について  
 赤坂長松寺  
 (明治30年4月1日、群馬県尋常中学校群馬分校が  
 この長松寺を仮校舎として発足した)

○表紙裏の写真について  
 上: 「高崎高等学校発祥の碑」  
 下: 仮校舎に使用した部屋

写真提供: 岩山 猛 (49回)

高高同窓会報 No.26 目次

|           |                              |    |
|-----------|------------------------------|----|
| あいさつ      | 創立百周年にむけて……………同窓会会長 小山 禧一    | 3  |
|           | 秋風や最善の力唯盡す…………… 学校長 金井 秀一    | 4  |
|           | バラ匂う学舎に着任して…………… 全日制教頭 根岸 信吉 | 4  |
|           | おかげさまで果表彰…………… PTA会長 関 敏克    | 5  |
|           | 卒業生の作品紹介                     |    |
|           | 「天平の韻」大山 武……………              | 5  |
| 特別寄稿      |                              |    |
|           | 「知恵袋」のことなど…………… 大林 勝典        | 6  |
| 論壇        |                              |    |
|           | 御名はオンナ…………… 大木 紀元            | 7  |
| 私の回想記①    |                              |    |
|           | 唯一の学問的な思い出…………… 田村 遵一        | 8  |
|           | 四年間を振り返って…………… 前川俊文江         | 8  |
|           | 翠辮講演会のこと…………… 中里 洋一          | 9  |
|           | 大学生からの便り                     |    |
|           | 「伝統よさらに栄あれ」…………… 大場 信弘       | 9  |
| 連載/高崎だより② |                              |    |
|           | 「高崎市美術館」と「山田かまち水彩デッサン美術館」    |    |
|           | 高崎高校創立百周年……………               | 10 |
|           | 同窓会だより……………                  | 11 |
|           | 翠辮育英会だより/翠辮体育会だより—平成四年度      |    |
|           | 総会報告/上野議員が誕生して/記念誌「乗野野の      |    |
|           | 賦」/第七回高崎薪能上演/井上房一郎(15回)の     |    |
|           | 胸像/褒章・叙勲者紹介                  |    |
| 母校だより     |                              |    |
|           | 運動部……………                     | 15 |
|           | 母校職員人事異動……………                | 15 |
|           | 学芸部……………                     | 16 |
|           | 高高・前高定期戦……………                | 18 |
|           | 進学状況……………                    | 19 |
|           | 翠辮文庫……………                    | 19 |
|           | 同窓会会計報告・予算案……………             | 20 |
|           | 新年総会へのお誘い……………               | 20 |
|           | 事務局だより……………                  | 20 |

# 創立百周年に

## むけて



同窓会々長 小山 禧一

この同窓会報が、同窓の諸兄のお手元に届く頃は、激動の平成四年も終わりがけておりますが、会員の皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

御承知の事と存じますが、この高崎高校同窓会は、会員の皆様の同窓会維持会費によって運営されております。その維持会費の納入が、年々増加の一途をたどり、順調に発展しております。これも、ひとえに会員諸兄の御理解と御協力の賜と、深く感謝申し上げます。

また、今年五年毎の同窓会会員名簿の改訂版発行の年でありましたが、五月に無事発行され、内容も一段と正確なものになり、会員相互の交流と、母校との関係の密接化に非常に役立っております。

さて、湾岸戦争で始まりめまぐるしく変わった世界の動きの中で、日本のこの一年を振り返ると、バブル経済の崩壊で一攫千金の狂騒が収まり、い

まその反動でか、景気に底冷えの冬が一足早くきております。不景気を憂える声が、あちらこちらから聞こえてきますが、私は、日本経済の復元力は、これくらいのことには乗り越えられると確信しております。

この日本の経済力の原動力はどこにあるのかと思えます。私はそれが教育にあると考えます。他の諸国と比べるとなく、日本の教育の充実と国民の知的水準の高さは群を抜いています。国民のほとんどが読み書きができ、四則の計算ができる国というのは素晴らしいことです。もちろんこうした成果は十年や二十年というくらいの短い積み重ねでは決して顕れてはこないものでしょう。何十年、いや何百年にわたる日本人の教育に対する熱意が秘らせた果実であろうと思えます。

国家にとって教育が最も大切であるということをはるか二千五百年も昔の人である孔子が「論語」の中で教えています。そしてまたさらにこう

も言っています。「教育を国民に施せない国は、滅びてもやむを得ない」と。

しかし、日本の国の歴史を見ると、さまざまな紆余曲折を経ながらも、幸いにして、教育を大切にしてきた国だと言えます。その恩恵を受けてようやく今日の繁栄があり、それを享受できる私たちが存在できるのです。そのことに思いを致すとき、私たちがまた、後世の日本人のために「教育」と、またそれを大切にすべしというものを伝えていかなければならないと痛感致します。

わが高崎高校は、創立以来九十五年を閲し、卒業生はすでに二万余名を数え、各界に有為の人材を多数輩出し、また地域の中心として活躍する人も多く、名門の名をほしいままにしております。今、その母校の百周年の記念事業の骨格が十一月二十日の理事会で承認されました。この一大事業は、卒業生二万余名が丸となって当たらなければ成し遂げられないものであり、またそうするところに深い歴史的意義もあると思えます。

かつて私たちが学んだ高中・高専で、将来の日本を背負って立つ若い青少年が学び続けていくために、なにか素晴らしい贈り物をするには、たゞ高崎高校一校のためになるのみならず、地域社会、さらには国家のためにもなるのだという見地に立って、この百周年事業を推進していきたいと願っております。

どうか、同窓生諸兄の暖かい御理解と一層の御協力をお願い致します。会長の挨拶と致します。

(美峰酒類(株)取締役社長 42回)



## 秋風や最善の力唯盡す

校長 金井 秀一

校庭の銀杏並木が鮮やかに色映える時節となり、高崎高校も「秋風や最善の力唯盡す」(虚子)の意気込みで、勉学にスポーツにと、全校が燃えております。突然でしたが、十月一日付で宮川清教頭が前橋西高の校長として、ご栄転になりました。三年半にわたり、文字通り率先垂範して、本校のため献身的に尽くしてくれました。県下高校長の最若手として、今後の活躍が大いに期待されます。代わって前橋高校から、新たに根岸信吉先生をお迎えいたしました。一月余で早くも本校の水に馴れ、優れた指導力と緻密な学校運営で、職員・生徒の信望を集めております。前教頭同様よろしくお願い申し上げます。

学校の近況につきましては、進学成績や部活状況等、母校便りに詳述してありますのでご覧いただきたいと存じます。先日県外のある高校から、校長さんはじめPTAの方々から三十余名来校されました。そのとき「本当に男子生徒だけですか」と質問が出たほど、校内の清掃が行き届いている、とあって賞賛されました。前に講演に見えた旺文社の方が、「全国の有名校を訪れているが、生徒の挨拶と清掃で、その学校の真価の程が計れる」と高々をほめてくれたことを思い起こしました。また、痛ましい高校生の交通事故の報道が続いておりますが、幸いにも本校では事故死、重大事故等のゼロ記録が続いておりますし、この四月以降今日まで、非行等による指導措置も皆無であります。これらは校長として、最も嬉しいこととであり、誇りにも思っておるところであります。着任以来、当たり前のことが当たり前にできる高々生の育成、ということの基本に据えてやっております。このことが、学力向上や部活振興にとって不可欠の要件であると確信しております。

学校週五日制、家庭科の男子必修、優秀中学生の県外流出等、文武両道の進学校を目指す高崎高校にとって、多難な前途が予想されます。しかし先述いたしましたように、陶治性に富んだ高々生をみておりますと、勇気と希望が湧いてまいります。母校に対する、より一層の御支援、御協力をお願い申し上げますと共に、高々同窓会の益々の御発展を祈念申し上げて、挨拶いたします。



## バラ匂う学舎に着任して

全日制教頭 根岸 信吉

この度、十月一日の人事異動で、前橋高校より教頭として着任いたしました。

本校は、文化的にも地理的にも群馬の要に位置し、気骨あるすばらしい風土に発展した一世紀にも及ぶ輝かしい歴史と伝統を有する学校であることは、何人も認めるところであります。このすばらしい高崎高校に着任できたことは、私にとって至上の喜びであると同時に、その責任の重さに身の引き締まる思いが致します。

さて、本校の平成三年度末の進学状況は、東大合格者十六名(内、現役十五名)を初めとして延べ数一〇二〇名(現役合格率六六・二%)に及ぶ好成績をあげ、一方部活動に於いても、本年度、国体(山岳・陸上・水泳)や関東大会(軟式庭球・柔道・軟式野球)に出場し大いに活躍しております。これらのことは、先輩の方々が築いた歴史と伝統が後輩に受け継がれている証です。

さて、本校の平成三年度末の進学状況は、東大合格者十六名(内、現役十五名)を初めとして延べ数一〇二〇名(現役合格率六六・二%)に及ぶ好成績をあげ、一方部活動に於いても、本年度、国体(山岳・陸上・水泳)や関東大会(軟式庭球・柔道・軟式野球)に出場し大いに活躍しております。これらのことは、先輩の方々が築いた歴史と伝統が後輩に受け継がれている証です。着任して間もなく、その上非才ですが、金井校長先生初め同窓会の方々、諸先生方のご指導を得て、群馬、否、日本を支える先輩の方々に続く有為な後輩の育成に微力ながら心新たに尽力する所存ですので、ご指導ご鞭撻を願ひ申し上げます。ご挨拶と致します。



## おかげさまで県表彰

PTA会長 関 敏克

さる十月三十日に、群馬県教育委員会より高高PTAが団体表彰されました。これも同窓会の皆様のご支援、ご協力の賜物と感謝しております。

我々高高PTAでは、学校案内のパンフレットにある本校の教育目標達成のために全面的な協力をしており、より具体的な「五つの方針」が金井校長によって示されており、これらに沿って活発な各委員会活動を展開しております。ちなみに「五つの方針」ですが、生命の尊重、規律ある生活習慣の確立、学力の向上、部活動の奨励と校内の美化の五つです。

事業委員会では年数回の地区懇談会を開催しております。また先生方と協力して、生徒の通学状況を街頭調査し交通事故の防止に役立つ活動しております。高高生千二百名の九九%が自転車通学をしている実情があり、重要課題としております。

セミナー委員会では、会員の生涯教育の一環として、「PTAセミナー」を年三回開催しております。毎回二百名以上の会員の参加者を得て通算十八回

を数えました。先月には、「国際化とは何か」の題で早稲田大学教授の神保尚武先生に講演をお願いいたしました。

広報委員会の発行するPTA会報「爽風」の第二十七号は全国高P連のコンクールで優秀賞を受けました。まもなく発行される予定の第三十五号は、「対前高定期戦」を取材して特集号を組んでおります。前号の三十四号は「翠憐祭」の特集でした。

学年委員会では各学年懇談会を開催して、高高生の永遠のテーマのようでもある文武両立の問題や最大の関心事である大学進学のこと等、いろいろの情報交換の場を提供しております。

先輩各位が築いてこられた伝統を守りつつも、社会変化に対応したPTA活動が重要といわれております。学歴社会と能力主義、学校週五日制と家庭教育など重要なキーワードがあります。これらはこれからの課題ということにさせていただいて、この紙面を借りて手現状報告をさせていただきます。

(医師 57回)

### 卒業生の作品紹介⑧

#### 工芸染色家 大山 武

およそ千三百年前に中国より我が国に伝来された古典の染色技法である縹緗染で色留訪問着を制作しているものですが、主に華やかな宴の場に着用するものですから大胆に鳳凰を配し、それに草花をあしらったものです。この作品は実質三ヶ月余りを要し、今年の桑の実の熟れた頃に完成させたものです。

(工芸染色家 50回)

#### 「天平の韻」



特別寄稿

『知恵袋』のことなど



大林 勝典

章を読む機会があり、この手の話（といっても趣は大分違うのだが）に出会ったのでご紹介しよう。題して「無過の金箔」。ご大層な題だが、なんのことはない。全人たらんと欲しても、それはかなわぬ夢、過ち無きを粧ったところで、そんな金箔すぐ剥げる。無理しなさんなという、文章には申し訳ないが、お説教調のつまらない文章である。ところが、どうしてどうして、それがまことに面白いのである。その章中に、鷗外が「玉露叢」という書物から引用している。その引用部分に不審な点があったので、著者を調べてみると、林鶯峰。ああ、あの林さんの出か。博覧強記の人。世に名高い「本朝通鑑」の編者の一人鶯峰ではあるが、愛嬌のある迂闊者羅山先生の件のである。やっつけられました。

話はこちらである。若い將軍家綱が、御能上覧の当日になって、夕方までにまわりを白壁にせよと命じる。無理なご注文に皆が大いに難渋するが、松平信綱がすぐに引き受けて、いかにも知恵伊豆らしく、奉書紙を張ってその難題をうまく捌いてしまふ。世人は挙ってそれを称嘆するが、本田忠勝はそれに同調しない。とんでもないことなのである。忠勝の曰く「御若年の上様の

ためなれば、俄に調ふ儀にてもさやうに軽々しくは成就いたさせざるものなり、何時何事を仰出されても事調ふ儀と思召されては、天下の政にささはることなり」と。かつての武功派が能更につっぱっている体である。

それを引き取って鷗外が、忠勝は家綱のために危ぶんでいるが、私は信綱のために危ぶむ者だ、無過の金箔は剥げやすいと訓戒を垂れて、文章を結んでいるのである。

ちよつと待ってくれ給え。「時代や違ひ侍らん」である。そこで人名辞典の登場。果たせるかな。本多忠勝は一六一〇年に死んでいる。その年信綱は十四、五歳で、幼い家光のお遊び相手をしている年頃である。親爺どのが他愛なく遊んでいる頃だから、伴の家綱など影も形もないのは当然。忠勝君はどこで何を危ぶんだのか。おお、しんど。ここでやっつと、道風筆「和漢朗詠集」につながりました。

「徒然草」の方はなんとも楽しい話だが、「玉露叢」の方はどうもいただけない。延宝二年の自序があるそうだから、鶯峰は五十そこそこ、しかも家綱將軍在位中の著である。とすれば、なんと奇怪至極の話ではないか。鶯峰も鶯峰だが、鷗外先生ともあろうお方が、それをそのまま引用してのご述懐はどうしたことか。

全集によれば、「知恵袋」は明治三十

一年に「時事新報」に掲載されたものだろう。小倉の師団へ赴任する前年のこと、鷗外は三十七歳である。四十一回連載されたが、ついに単行本には収められなかったという。変に気負った前書きも、「知恵袋」などという標題も、それに文章そのものも、後年の鷗外にはなんともやり切れなく、どうにも単行本に収める気になれなかったのではあるまいか。どうもそんな気がする。それにしても、大正期に入ってから

の鷗外の歴史への傾斜は興味深い。大正元年の「興津弥五右衛門の遺書」に始まる歴史物や、大正五年の「浪江抽斎」に続く史伝物の充実した系列は、みごとという外はない。その余沢は今も多く読者をうるおしている筈だ。私たちが乗附て使った教科書「岩波国語」はとてもよかった。昭和九年に出たものの改訂版とは後で知ったが、戦争中であつたにもかかわらず、そこには大正デモクラシーの残り香とでもいったものが漂っていたように思う。

鷗外の文章も、二年の時の「厨子王」と四年の時の「寒山拾得」と、二度出てきたと記憶する。「山椒大夫」「寒山拾得」ともに鷗外大正期の作品である。前者では、律師という語が出てきて、僧位僧官について学んだ覚えがあるが、後者については、教室で習ったかどうか覚えがない。勤労働員のまっ最中であつたから。（自由業 45回）

小野道風筆と伝えられる「和漢朗詠集」を持つている男が、それは時代が違ふ、肩唾物だといつこまれて、「さ候へばこそ、世にありがたき物には侍りけれ」と言つて、前にも増して愛蔵したという話が「徒然草」にある。高校生なら一度は出会っている段であろう。「和漢朗詠集」の編者藤原公任は、道風の死んだ年に生まれているのだから、この男、負け惜しみの強い男と言おうか、憎めない男と言おうか。だが、このような人物は、今でもその辺に実在しそうで面白いし、また、兼好の創作としても、人間を見据える眼の鋭い彼らしくて、面白い話である。

最近、森鷗外の「知恵袋」という文

## 御名はオンナ

大木 紀元



女の子に「子」の字を付けたのは、仁明天皇（在位八三三〜八五〇）の皇女・正子（まさこ）内親王にはじまる。はじめは皇族の名前にだけ付けたものだったが、明治になって「華族の女性の名前に子を付けるように」との政府からの奨励もあり、まず上流社会の女性にのみ「子」の付く名前が認められるようになった。

「子」の字が女性名として一般にも使われたしたのは、せいぜい大正の中頃からのことだ。昭和の初期が全盛であった。小野妹子、中臣鎌子（のちの藤原鎌足）の例が示すように、古代において「子」は男性名でもあった。奈良時代以前は男女を問わず幼名に「子」の字を付けることが多く、成人してもそのまま名前として残る場合があった。つまり「子」は、もともと愛称だったからである。当時は、馬子、天子、太子などの「子」は男子の尊称で、日子（ひこ）が男、日女（ひめ）が女であった。

現代では、画家の川端龍子（りゅうし・本名＝昇太郎）や俳人の水原秋桜子（しゅうおうし・本名＝豊）などが、よく女性と間違われるそうであるが、「子」が女性名と常識的になっている今では、むべなるかなである。

田沼則子さん、この人などは女性に間違われて得した方である。本名は「たぬま・ただし」というが、「のりこ」と読ま

れて戸籍の「男」という字が消されてしまったため、戦時中に招集令状が来なくて助かったそうである。これは名付け親に大いに感謝しなければなるまい。この田沼則子とは、俳優の三木のり平さんである。

わが国の国文学史上に燦然と輝く平安女流文学「源氏物語」の紫式部、「枕草子」の清少納言、「赤染衛門集」の赤染衛門、「和泉式部日記」の和泉式部、その名はあまりにも高名であるが、実名は全て不明である。たとえば紫式部。彼女の「式部」とは、父の式部大丞という官名からで、初めは「藤式部」と呼ばれていたが、物語がヒットするにおよんで物語のヒロインの名をもじって、いつのまにか「紫式部」と呼ばれるようになったらしい。ところまでなぞ実名がわからないかというところ、中世までの家系図には男性の名前しか記入されず、女性の母方の場合でも「何某の女」としか書かれていない。一説に藤原香子ではといわれる式部女子も、現実には単に「女子」、あるいは「何某の妻（室）」でチョン。

また戦前、忠君愛国思想の鏡として大いに喧伝された清和源氏の名門、新田義貞。その義貞への忠誠と愛をつらぬいた美貌の京女「勾当内侍」。彼女の名も実名ではない。彼女は公家の一条経尹の娘で、兄は後醍醐天皇の寵臣一条行房で、彼女

も召されて官中の女官となっていた。その下級女官の官職名が「勾当内侍」であり、その女官を義貞が見初め、天皇より賜ったという次第で、やっぱり「君の名は」不明。男性社会の世では、洋の東西を問わず女性にはモノ扱いなのだ。

近年わが国でも雇用が男女均等となり、夫婦別姓法制化の実現の日も近く、結婚しても妻が夫の姓を名乗らなくてもよい時代になりつつある。奥の部屋や脇の室に居るべき「奥方」や「女房」殿が表座敷に鎮座しますと、「家内」が「家外」になる日も時間の問題であろう。

西洋でも *Madame*（ワイフ）の語源は *Mother*（「つつまれた人」、すなわち「ベールをかむった人」のことであったし、*Madame*（レディー）も古い時代の「パンをこねる人」の意の英語からできた言葉で、まさに「家内」であったのである。名前の中性化で「子」の付く名前の子が少なくなってきた昨今、二十一世紀の日本には、本来の意味でのワイフやレディーは、さして居るのか居ないのか。老婆親切、蛙鳴蟬騒。

（株式会社イデア副社長／株式会社大紀デザイン社長／医療法人財団ヘリオス会病院理事 58回）

## 私の回想記



講堂

## 唯一の学問的な

## 思い出



田村 遵一

高々時代は思い出の宝庫である。しかし、そのほとんどが(楽しかったが)ろくでもないことで、およそ優等生と反対の三年間であった。そんな記憶のなかにも唯一、素晴らしいと思える瞬間があった。私は三年間郷土部に所属した。といっても部活自体も、普段はほとんど遊んでいるだけで、翠櫛祭の前だけちょいとがんばる、といったダメな部員であった。三年生の翠櫛祭で部長をつとめた中山純一君あたりの発案と思うが、群馬県の道祖神を調べることになった。例によって情性部員である私も、皆の叱咤激励をうけて自分の受け持ち地域である、安中地区あたりの古い町並みを自転車で行き回り、道祖神を見つけてはその年代と形態を調査した。地味だが大変な仕事であった。全く何でこんな面倒なテーマを考えたのか、とそのときは思っていたが、群馬県地図に年代を色分けして調査結果をプロットしたとき、衝撃を受けた。

信州方面から、群馬県の北西部を経て道祖神の風習?がひろがってきた様子が、鮮やかに浮かび出た。本で得た知識でなく、自分達で集めたデータでの新知見に感動した。これが学問と思つた。現在、医学者のはしくれとして毎日、細胞や蛋白を相手に苦闘しているが、手作業は全く退屈である。しかし結果を図表にするときの興奮がエネルギーであり、その原点はどうやら高々時代の、あの瞬間らしい。

(群馬大学医学部第三内科医師 73回)

## 四年間を振り返って

前川 倭文江

先生から回想記をとのお話があり、入学の動機を振りかえってみた。子育てにも一段落がつき、特に目的も持たない平凡な生活に何の疑いも持たず日々を送っていた。回りの人達を見ると、それぞれの人が生き甲斐を持ち、充実した毎日を送っている。そんな中で私は、置き去りにされたような言いようのない焦りと不安を感じ始めていた。何かをしなければ、何かしたいと思いつながら、気持ちだけが空回りするばかり。そんな時に、高々通信制の生徒募集を広報で目にした。まずは

高校の通信教育とはどんなものなのか学校へ問い合わせしてみたのが入学の動機だった。

入学式当日、せいぜい五、六人の生徒が入学式に臨むのだと思ひ込み、気軽な気持ちで出かけて行つた私は、その人数の多さもさることながら、式次第が厳粛に行われたのに更に驚き、入学したその日からもう逃げ腰になってしまった。頂いた教科書を開くこともなく一ヵ月ぐらい考え「邯鄲の歩み」にならぬよう、自分のペースに合わせた勉強方法で挑戦してみようと決心した。自分なりに時間をかけ考え、悩み結論を出したつもりだったが、まさに「苦は色を変え様を変え」る如くだ。

テスト室に入る時やその結果を知るときなどは、それまで経験したことのないほど緊張した事を今でも思い出す。地域ごとに月一回行われる学習会への参加や全日制と一緒に翠櫛祭、夏の合宿、運動会等、年間を通しての様々な行事なしには、学習活動は到底続かなかつたと思う。これらを通じて級友との連帯感や競争心がより深まり、学習意欲を持続できたと思う。

今思い出しても赤面するほどの失敗の数々を重ねながら卒業の日を迎えた時の感動は、一言では言えない。行事の度に歌唱指導をいただき、練習を重ねた校歌を歌いながら胸が熱くなってきたのを、今でも思い出す。

卒業して早三年、今は次なる目標に向かつて牛歩のごとく進みつつある。

(通信制 32回)

## 翠巒講演会のこと



中里 洋一

高崎高校の思い出は、多種多様にわたる。縁に包まれた木造校舎、バラの庭園、観音山や烏川といった豊かな自然、多士済々の先生方、個性豊かな級友達、生物部活動としての水棲昆虫採集、翠巒祭、前高定期戦等々。中でも特に強い印象を受けたのは、年に2〜3回催された翠巒講演会であった。

講師の陣容がすごい。各界を代表するまさに超一流の方々ばかりである。

思い出すだけでも茅誠二、林健太郎、中曾根康弘、蟻山政道、水上達三、松下幸之助、丹下健三、柔道の猪熊氏といった方々が次々と登場した。最近の大学祭でもこれだけの講師を集めているところはないだろう。

講演会当日は全校で授業が2時間ほ

ど休講になり、生徒全員が先生共々、校門を入れてすぐ右手にあった木造の講堂かあるいは新築成ったばかりの体育館に集まり、講演を拝聴した。

それぞれの講師が話した内容は既に忘れて久しい。しかし、あるときは雄弁に、あるときは朴訥と話される講師の姿と肉声に触れ、我々生徒が受けたインパクトは大きかった。講師の思想、哲学、人生観に接し、受けた感銘は、それぞれの若者の精神の奥深くに鮮やかに刻みこまれたようである。普段はまったく意識下に沈潜しているが、日常生活や仕事上で物事を考え、判断するとき、自分自身が翠巒講演会で受けた影響を垣間見る思いがするのは、一度や二度ではない。通常の勉学では得られない貴重な経験であった。

自分も高校生の子供を持つ年齢になった。我が子の高校でも、何度か講演会が開かれるらしい。内容を聞いてみると予備校の先生、学習塾の講師、模擬テストをやっている書店の情報部長などによる「進学指導講習会」の類が専らのものである。翠巒講演会のレベルは極めて高かったといえよう。このような講演会を企画し、実施された当時の先生方、講師の依頼や資金面で多大な御協力をいただいたと聞いている井上房一郎氏に対して深く感謝している。(群馬大学医学部教授 65回)

## 大学生からの便り

### 「伝統よさらに栄あれ」

大場 信弘

高々のいちよう並木は今、どんな感じでしょうか。京大体育館前にもいちよう並木があるのですが、見るたびに思い出します。

高々での三年間、バスケットボールをやってきました。他の九人の素晴らしい仲間と比べてうまくいったとは決して言えないのですが、自分なりに一生懸命頑張ってきました。技術的な面はともかく、高々の文武両道の精神は少し理解したような気がしています。その文武両道の精神をもって、かろうじて入試を乗り切り京都にきました。

しかし、今年の三月に卒業した身であり、まだ高校時代は回想するといった段階に入っていないので、以下の文章は未熟なある卒業生のたわごとといった感じで読んでほしいと思います。

入学してから現在まで、学内・学外を問わず多くの友人ができました。当然のことながら出身校も北海道から九州まで様々です。また高々のように百周年を目前にした学校もあれば、第一期の卒業生を送り出した学校もあります。

ここで僕は考えます。「伝統とは何ぞや」と。年を経たことが伝統でしょう。そこらの石ころを伝統があるとは

言いませんから、必要条件かもしれません。十分に必要さそうです。

さらに「人がつくった」という条件を加えてみましょう。では先人の芸術品は伝統がありますか。これも必要条件にすぎないようです。

伝統には「うけつがれるもの」ということがさらに必要なように思います。世間では「うけつぐ」と「固執する」を混同している人が多くのように思います。ある一つの価値観・行動にしばられた集団は現状維持こそあれ、発展は見込めません。自己変革なき集団はいつかは滅ぶ運命にあるようです。

伝統とは積み重なるうちに発展していかねばならないものです。まとめると「ある程度年を経て、人がつくり、うけつぐが常に自己変革をすべきもの」ということになるのでしょうか。この意味において高々は他の全国の高校にひけをとらない伝統をもっているのではないかと誇りに思っています。

「伝統よさらに栄あれ」母校高崎高校が保守的になり、現状に満足することなく、伝統を積み重ね大発展することを望みます。

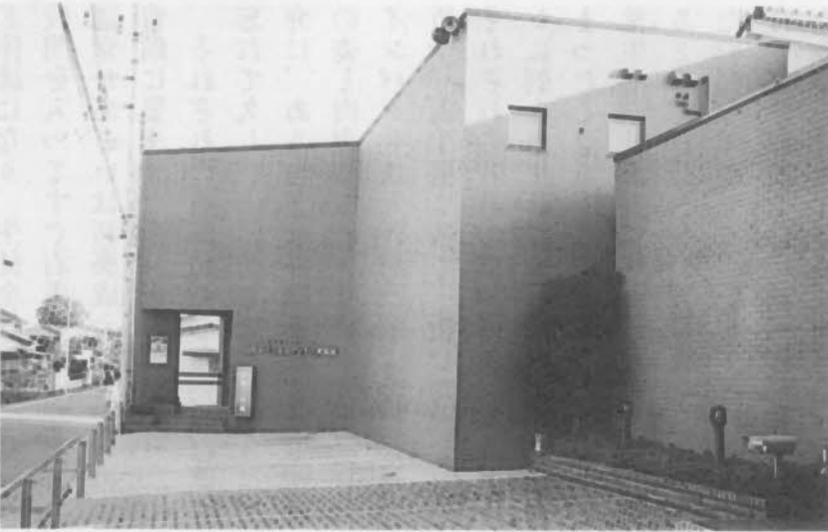
(京都大学法学部一回生 91回)

## 「高崎市美術館」と

## 「山田かまち水彩デッサン美術館」



高崎市美術館



山田かまち水彩デッサン美術館

「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へと関心が移りつつある中で、いまだ地元の美術館が注目されている。地元にある作家を中心に、埋もれていた作家を発掘したり、自主企画展でメジャーではない作家に光をあてたりといった、これまでの既成の枠にはまらない独自の方向性を目指している美術館が増えている。

高崎駅西口から徒歩で数分の場所にある高崎市美術館。市民がより身近に芸術文化を楽しむ機会を持ったため、昨年の七月に建設された。

オープン以来、「会津八一・吉野秀雄一師弟二人展」「豊田一男回顧展」「中村節也展」といった、地元に関係した作家の企画展を次々と組んできた。

企画展と企画展の間には、当館収蔵作品から高崎にゆかりのある作家とその周辺を四期に分けて展示。収蔵作品は、高崎市ゆかりの作家、山口薫、中村節也、豊田一男、福沢一郎などの油絵、分部順治、佐藤忠良、ロダンなどの彫刻、浜口陽三、ミロ、ピカソなどの版画がある。

入館者は一日平均八十余名。コンクリート打ち放しのモダンな外装で、一階から三階まで吹き抜けになっている。南側一面はガラスブロックで明るい。喫茶コーナーもあり、電車の待ち時間やショッピングのついでに立ち寄

ったり、待ち合わせに使ったりと、気軽にアートを楽しむことができる。

高崎高校のすぐ近くの片岡町に、昨年の二月に開設した「山田かまち水彩デッサン美術館」は、一九七七年夏、十七歳で事故死した高々生、故山田かまち君の遺作が展示されている。無名の少年画家の作品だけを集めた個人美術館は、県内初。全国でも珍しいということだ。

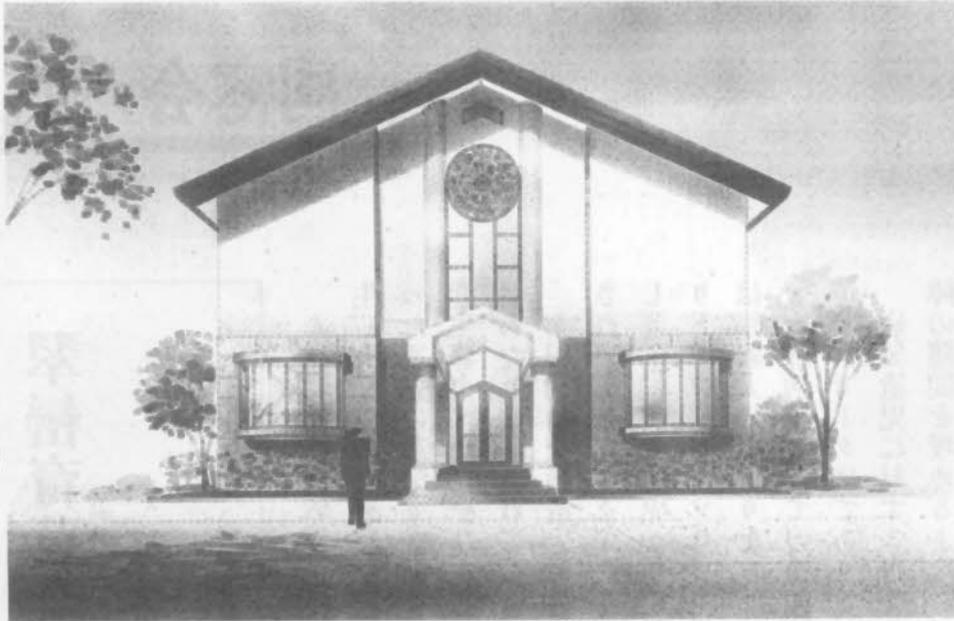
山田かまちは、小学生の頃から豊かな絵の才能を認められ、美術愛好家で知られる井上房一郎氏からも将来性を期待されていた。八一年には恩師らの手によって、八九年には井上氏の主催によって遺作の個展が開かれている。今回、この美術館をつくった広瀬画廊社長の広瀬毅郎氏は「山田君はデッサンの描写力と、水彩画の色使いの両方の力を兼ね備えた、天才的な画家」と絶賛する。

また、小・中学時代の同級生に人気ロックグループ「BOØWY」の元メンバー、氷室京介がいて、ラジオ放送や雑誌で紹介したこともあり、若者の間で静かなブームが広がった。春休みや夏休みには全国から訪れる若者の姿が目立った。開館一年過ぎた今でも、休日を中心に熱心なファンの姿が途切れることがない。

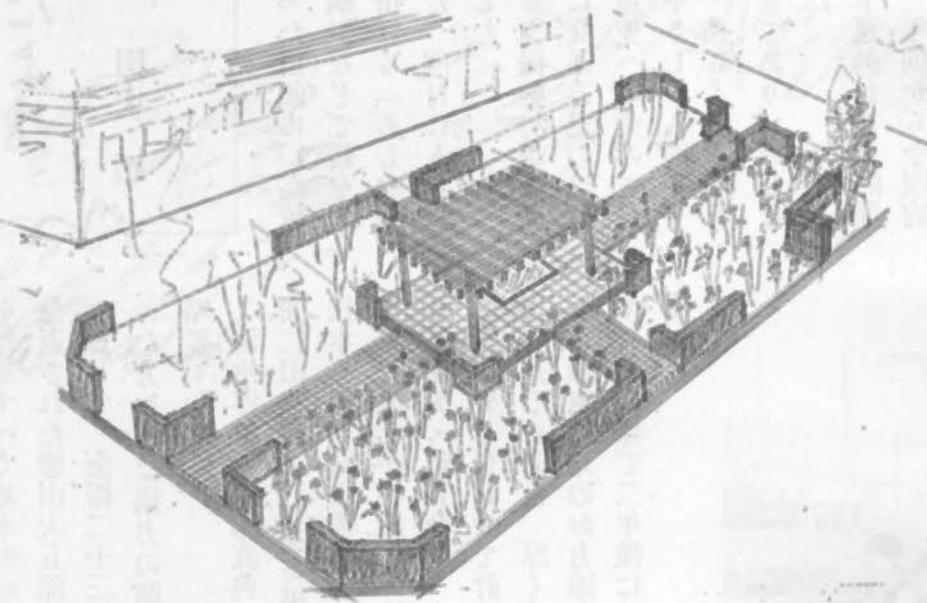
# 母校創立一〇〇周年

## 記念事業の

## 素案まとまる



高崎高校同志会館イメージパース



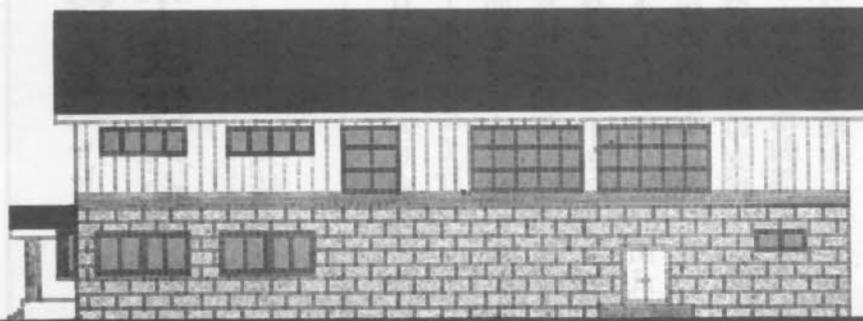
バラ園周辺見取図

|        |       |
|--------|-------|
| 委員 長   | 小山 禧一 |
| 総括委員 長 | 重田 精一 |
| 総務委員 長 | 浦野 清  |
| 募金委員 長 | 田中 順  |
| 事業委員 長 | 横田 英一 |
|        | 須永 孝  |

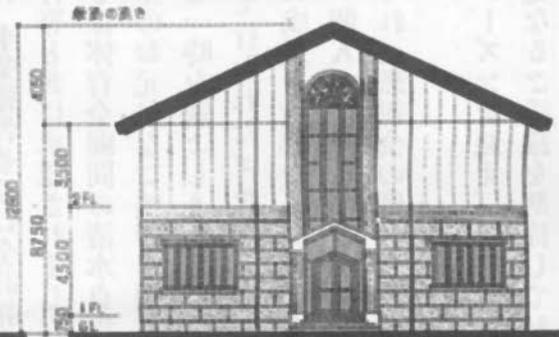
母校高崎高校が群馬県尋常中学校群馬分校として、一八九七（明治三〇）年高崎町赤坂の長松寺に呱呱の声をあげて以来一〇〇周年まで、あと四年数カ月になりました。同窓会では、これにあわせて高崎高校の将来の発展に寄与できる記念事業をすすめたいと、柴山前会長により準備委員会が組織され、小山会長に引き継がれたのち記念事業の内容、実行委員会の組織等準備をすすめてきました。そして、本年六月の理事会では、実行委員会の構成と各委員会の正副委員長が承認され、また、十一月の理事会では記念事業として同窓会館の建設とその周辺整備が承認され、いよいよ具体化の段階に入ってきました。主事業については、図に示した原案を基本として、学校の要望を十分取り入れながら確定することになります。

あと四年数カ月です。さまざま厳しい条件の下ではありますが、創立一〇〇周年という母校創立以来最大の記念事業ですので、大成功裡にこれが完遂できるよう全同窓生の皆様のご協力をお願いいたします。

なお、今後は記念事業関係につきましては、「創立一〇〇周年記念事業実行委員会」からお知らせします。



南立面図



西立面図

## 翠巒育英会だより

田中 順

赤い羽根街頭募金が終わった街頭に、高校生、大学生の交通、災害、病気などで親を失った遺児の進学支援を呼び掛ける「あしなが学生募金」が目をひきました。四月にも数日にわたり実施されておりました。

全国的に交通遺児に対する支援態勢が先発され充実していますが、更に交通遺児の恩返し運動、災害遺児から病氣遺児への愛の拡がり、フライランソロビー（やさしい人間愛）は無限大の広がりを見せています。その啓蒙と実践活動としての街頭募金であり、あしながPウォーク10でありました。

病氣遺児に対する育英奨学運動が社会的保障の隙間を埋めるように、三年前から全国的に開始され、今年も各紙とも病氣遺児作文集、父さんなぜ死んだの、を大々的に報道して反響を呼んでおりました。

我が翠巒育英会では前述した遺児は勿論のこと、小回りがきくところから、既に保護者の疾病、災害にときめ細かく対応しております。発足以来、四十七名の生徒の給付奨学金累計決定額が一二九一万円に達しました。対象校が拡大され従来の五校（高高、高女、高市女、高商、高工）に加えて中央高にも給付



することができるようになったのも、公益性を尊重すべく基本財産の充実に苦慮され昨年急逝された柴山大五郎前理事長の遺贈をはじめとして、会報二十三号既報後、ご寄付下さった方々のご協力の賜物であります。（敬称略）

清水淳雄・安藤直典・岡本正己・谷内浩・

間仁田恭一・木村遊奇男・浦野一男・田中 順・

松本芳郎・富永秀治・善如寺秀・茂木三郎・

吉見和夫・小屋敏一・清水貞保・磯貝福七・

今井保男・昭五会

既報分を合わせて計三十八件、六百九十五方に達しました。厚く感謝申し上げます。更なる同窓諸兄のお力添えをお願い申し上げます。お蔭様で二年後には設立十周年を迎えます。（田中尚科 51回）

## 翠巒体育会だより 平成四年度総会報告

大崎 哲朗

去る九月二十五日、平成四年度の翠巒体育会総会が高崎ビューホテルにて行われました。当日は宮川清教頭並びに立見賢治運動部長を初めとする高崎高校運動部顧問の先生方を迎え、運動部OB会一同七十余名の参加を得て盛大に開催されました。総会は岩田武雄会長の活動報告、今後の活動方針等を基に活発な議論のもと、現役の一層の支援、金井秀一校長の提唱される高々の運動部強化策の応援、各運動部OB会間の連携をより深めることなどが提案され、事業報告並びに会計報告、会報第12号の発行等と共に承認されました。また、懇親会では体育会顧問の清水貞保先生、岡田由重先生のお元氣なご挨拶を頂き、会員一同和やかな一時を過ごしました。総会に先立って行われたゴルフコンペでは、日頃の鍛練の成果を遺憾なく発揮して、団体では卓球部、個人では野球部の小林均氏が見事優勝を飾られ、懇親会の席上で表彰されました。

冬のスポーツシーズンを迎え、翠巒体育会では現役諸君の更なる活躍を期待しております。（翠巒体育会広報編集部 77回）

# 同窓会だより

二七五、七九三票。選挙事務所の万歳連呼と喧騒が何か別世界で起きたセピア色の写真の光景のように思えた。  
 こんなに大勢の人が、上野の名を書いてくれるとは……。県民が建設省畑のプロを切望していたのだと納得。  
 昨秋、約束された官吏としての将来をすべて擲げうって、故郷高崎に帰って来た日の上

**上野議員が誕生して**  
 佐藤 和徳



野の顔。  
 建設行政を通して眺めていた群馬県に対する愛着と展望が、こんなに大きな賭けに踏み切らせてしまったようだ。  
 早速、呼び集められた同級生も、事の重大さに驚き、各々育ってきた分野が異なるためか、上野を支援する、という目的は一致しているものの、方法論の違いで、最初から話し合いは喧々諤々。  
 これまで、あんなに仲の良かったクラスなのにと、思うような事態も出来た。  
 ようやくまとまりをみせ始めたのは、一党一派に偏さないという同窓生の不文律を冒してまでも結成した、上野公成高々有志の会が、他期の先輩、後輩を巻き込んでからであった。  
 殊に重田精一先輩を会長に戴いてからは、その連繋は強固なものとなり、発起人諸氏その他の力強い後押しで、今まで、口舌の徒の群、と言われたものが、行動する集団、と評されるように変貌した。  
 上野も県下各地で、俺も高々出身、だと名



第49期同窓会（会長・山田富二）では、高卒業四十周年ならびに還暦を記念して、記念誌「乗附野の賦」を発刊し、母校にも寄贈がありました。A3判、口絵24ページ、本文二一八ページの立派な本で、懐かしい思い出や夢が一杯詰まった内容になっています。  
 なお、ご希望の方には領布もしており、お問い合わせは、住吉町四番地、深井印店・深井正司様までのこととす。

**記念誌「乗附野の賦」**

乗る方達に勇気づけられたと語っている。彼の国政の場での地道な活躍を、ほとんどの高々同窓生が期待してやまない。  
 （第一病院院長 57回）

# 同窓会だより

## 第七回高崎薪能上演

去る十月二十日、第七回高崎薪能の上演にあたり、本校の卒業生で観世流能楽師である下平克宏氏（七十六回）より、母校に鑑賞券三十枚の寄贈がありました。

当日はあいにくの雨模様で、会場が観音山から音楽センターに変更になりましたが、満員の盛況のうちに、狂言の「栗焼」や観世流の能「鶴飼」が演じられ、芸術の秋を満喫しました。



## 井上房一郎先輩(15回)の胸像

幅広い地域文化の先導者を讃えて群馬の森県立近代美術館に標記胸像が神田元知事を中心に、小寺知事、松浦市長を始めとして錚々たる方々が顕彰委員会を組織して制作し、同美術館に寄贈設置された。作者は武蔵美術大学田中栄作教授である。

同時に井上氏周辺より母校指月庭の片隅に同一胸像をとの寄贈の申し出があり、永年に亘る母校に対するお力添えもさることながら、特筆に値するのは蛍雪時代に「バラの咲く学園」と紹介、校歌にも引用されている母校の恩人のこと、常任理事会にて受入れが決定。百年事業との兼ね合いもあり現在校長室に仮設置中である。御健康を祈りたい。

(事務局)



## 褒章・叙勲者紹介

平成四年度に褒章・叙勲された同窓生をご紹介します。現在までに事務局で把握している方々です。他にもご存知の方はご連絡ください。

平成三年度  
勲三等瑞宝章(司法功勞) 小屋 敏一(38回)

平成四年度  
勲三等瑞宝章(地方自治功勞) 横山 巖(38回)

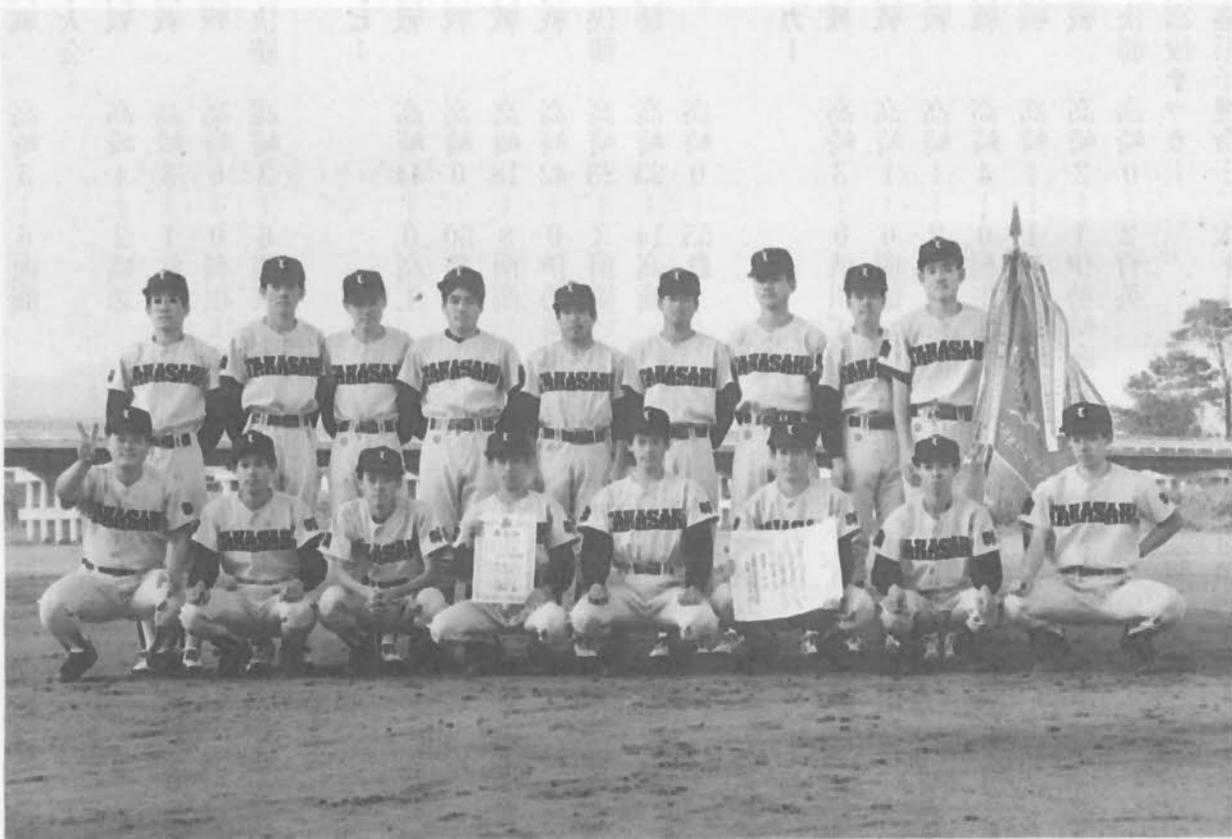
勲四等瑞宝章(地方自治功勞) 清水 三郎(38回)

勲五等瑞宝章(教育功勞) 清水 貞保(30回)

藍綬褒章(地方自治功績) 橋爪 和夫(49回)

文部大臣表彰 吉田 勇(40回)

文部大臣表彰 金井 秀一(50回)



軟式野球部県新人大会優勝

◇運動部報告◇

国体の県代表出場  
陸上・水泳・山岳部より（個人）  
県新人大会初優勝  
軟式野球同好会

本年度も、各運動部とも、栄光を目指し、日々努力を重ね、着実に前進しております。

その中でも、今年は陸上部、水泳部、山岳部の個人が国民体育大会の群馬県代表となるなど大いに活躍いたしました。また、高々にとって久し振りにチーム競技において、軟式野球同好会が、県新人大会初優勝という快挙を成し、高々運動部復活の狼煙を上げたことは特筆すべきことです。これを刺激にして、他の運動部も、OB諸氏の多大な援助、ご期待に応えるべくさらなる努力をする決意です。今後とも温かいご声援を宜しくお願い申し上げます。今年の各部の活動状況を報告致します。

①平成4年度県総合体育大会

②関東大会県予選会

③関東大会

④全国高校総体県予選会

⑤全国高校総合体育大会

⑥国民体育大会

⑦県高校新人大会

⑧その他の大会

注) ①②は兼ねる種目あり

◎硬式野球

⑧春季大会…

1 回戦 高崎 7-0 渋川西

2 回戦 高崎 7-1 藤岡工

3 回戦 高崎 6-5 太田東

準々決勝 高崎 1-2 樹徳

夏季大会…

1 回戦 高崎 9-2 榛名

2 回戦 高崎 5-1 富岡実業

3 回戦 高崎5-6前商  
秋季大会...

1 回戦 高崎4-2 婦恋  
2 回戦 高崎3-1 常磐  
3 回戦 高崎6-0 利根実業  
準々決勝 高崎3-6 関東学園

○ラグビー

① 1 回戦 高崎44-0 高工  
2 回戦 高崎0-50 農二  
④ 1 回戦 高崎18-8 前商  
2 回戦 高崎42-0 伊勢崎東  
準々決勝 高崎23-3 前橋  
準決勝 高崎23-14 高商  
決勝 高崎0-55 農二

○サッカー

① 2 回戦 高崎3-0 渋川工  
3 回戦 高崎1-0 樹徳  
4 回戦 高崎1-2 西邑楽  
④ 2 回戦 高崎4-0 桐生西  
3 回戦 高崎4-1 利根商  
4 回戦 高崎2-1 伊勢崎商  
準々決勝 高崎0-2 育英

⑧ 全国高校サッカー

選手権県予選会...二次トーナメント  
1 回戦 (高崎1-2 伊勢崎商)

○陸上

① 2 百m 今成 晃 22秒54 6位  
砲丸投 中島千暁 13m08 5位  
4×百mリレー 43秒52 5位

③ 2 百m 今成 晃 22秒37  
(決勝8位)

砲丸投 中島千暁 13m31  
(決勝11位)

④ 8 種競技 中山俊也 5440点  
(1位)

⑤ 8 種競技 中山俊也 5359点  
(6位入賞)

⑥ 4×百mリレー

今成 晃 40秒88 4位

⑦ 走幅跳 羽鳥修平 6m43 5位

今成 晃 10秒96 3位

棒高跳 馬場利幸 3m60 4位

○水泳

② 個人入賞

百m バタフライ 小安貴弘 優勝

2 百m " " "

千五百m 自由形 生方直 5位

百m 平泳 青木千昌 5位

① リレー種目

4 百m メドレーリレー 5位

8 百m リレー 6位

4 百m リレー 8位

① 個人入賞

百m バタフライ 小安貴弘 優勝

2 百m " " "

千五百m 自由形 生方直 4位

百m 平泳 青木千昌 4位

① リレー種目

4 百m メドレーリレー 5位

8 百m リレー 6位

<平成4年度職員異動>

○転出者

| 職名   | 氏名    | 教科 | 転任校等  | 備考        |
|------|-------|----|-------|-----------|
| 教諭   | 富田 裕二 | 保体 | 退 職   | 教頭        |
| "    | 山本 昭弘 | 社会 | 藤 沼   |           |
| "    | 武井 茂雄 | 英語 | 沼 洪   |           |
| 事務   | 島田 要  | 数学 | 西毛 養護 | 事務長       |
| "    | 村上 孝枝 | 事務 | 藤 西   |           |
| 事務補助 | 高橋 律子 | "  | 藤 退   | 職 員       |
| 教頭   | 松浦 玉枝 | "  | 前 橋   |           |
|      | 宮川 清  |    |       | 校長(10/1付) |

○転入者

| 職名   | 氏名     | 教科 | 前任校        |
|------|--------|----|------------|
| 教諭   | 田嶋 亘   | 社会 | 文書館        |
| "    | 斎藤 勇夫  | 英語 | 富高         |
| "    | 戸塚 英之  | 数学 | 中之条高       |
| "    | 櫻井 清   | 保体 | 館林高        |
| 事務   | 茂木 郁夫  | 事務 | 下仁田高       |
| "    | 堀口 ほづみ | 事務 | 新採用        |
| 通信教諭 | 半田 勇   | 国語 | 松井田高       |
| 教頭   | 根岸 信吉  |    | 前高 (10/1付) |

⑥ 4 百m メドレーリレーのバタフライ  
に小安貴弘が群馬県代表として出場

⑦ 千五百m 自由形 生方直 優勝

4 百m 自由形 " " 2位

2 百m 自由形 " " 2位

2 百m 平泳 坂本 泰 優勝

百m 平泳 " " 3位

百m 平泳 神 裕介 5位

① リレー種目

4 百m メドレーリレー 3位

4 百m リレー 2位

8 百m リレー 4位

③ 出場 (初冠雪の日光太郎山)

⑥ 新井裕己 (2年)

(群馬県少年男子チーム3名の一員として出場) 縦走競技9位。

⑦ 1年男子の部 八木茂雄 5位

2年男子の部 新井裕己 2位

○バレー

① 2 回戦 高崎2-0 前橋工

3 回戦 高崎2-0 太田

4 回戦 高崎2-0 栗央

準々決勝 高崎1-2 桐生一

④ 4 回戦 高崎2-0 桐生工

準々決勝 高崎0-2 高崎北

⑧ 西毛地区大会

1 回戦 高崎2-0 藤岡工

① 団体7位



柔道部関東大会出場

- ④個人戦(ダブルス)  
岸・川原(3年)組 準優勝  
矢島(3年)・板橋(1年) ベスト8
- ⑦団体戦  
21回戦 高崎5-0太田商  
3回戦 高崎3-1伊勢崎東  
準々決勝 高崎2-3太田東  
個人戦(ダブルス)  
今井・板橋組 3位
- ⑧全国選抜大会県予選  
(インターハイ予選会  
上位8チーム参加)  
1回戦 高崎71-69太田  
準決勝 高崎56-96樹徳
- ④卓球  
①1回戦 高崎0-3藤岡  
④1回戦 高崎1-3藤岡
- ①団体5位  
1回戦 高崎4-0富岡  
2回戦 高崎5-0沼田  
3回戦 高崎2-0渋川  
4回戦 高崎3-1農二  
5回戦 高崎0-1常磐  
個人Aブロック

- ④個人戦(ダブルス)  
岸・川原(3年)組 準優勝  
矢島(3年)・板橋(1年) ベスト8
- ⑦団体戦  
21回戦 高崎5-0太田商  
3回戦 高崎3-1伊勢崎東  
準々決勝 高崎2-3太田東  
個人戦(ダブルス)  
今井・板橋組 3位
- ⑧全国選抜大会県予選  
(インターハイ予選会  
上位8チーム参加)  
1回戦 高崎71-69太田  
準決勝 高崎56-96樹徳
- ④卓球  
①1回戦 高崎0-3藤岡  
④1回戦 高崎1-3藤岡
- ①団体5位  
1回戦 高崎4-0富岡  
2回戦 高崎5-0沼田  
3回戦 高崎2-0渋川  
4回戦 高崎3-1農二  
5回戦 高崎0-1常磐  
個人Aブロック

- ④個人戦(ダブルス)  
岸・川原(3年)組 準優勝  
矢島(3年)・板橋(1年) ベスト8
- ⑦団体戦  
21回戦 高崎5-0太田商  
3回戦 高崎3-1伊勢崎東  
準々決勝 高崎2-3太田東  
個人戦(ダブルス)  
今井・板橋組 3位
- ⑧全国選抜大会県予選  
(インターハイ予選会  
上位8チーム参加)  
1回戦 高崎71-69太田  
準決勝 高崎56-96樹徳
- ④卓球  
①1回戦 高崎0-3藤岡  
④1回戦 高崎1-3藤岡
- ①団体5位  
1回戦 高崎4-0富岡  
2回戦 高崎5-0沼田  
3回戦 高崎2-0渋川  
4回戦 高崎3-1農二  
5回戦 高崎0-1常磐  
個人Aブロック

- ④個人戦(ダブルス)  
岸・川原(3年)組 準優勝  
矢島(3年)・板橋(1年) ベスト8
- ⑦団体戦  
21回戦 高崎5-0太田商  
3回戦 高崎3-1伊勢崎東  
準々決勝 高崎2-3太田東  
個人戦(ダブルス)  
今井・板橋組 3位
- ⑧全国選抜大会県予選  
(インターハイ予選会  
上位8チーム参加)  
1回戦 高崎71-69太田  
準決勝 高崎56-96樹徳
- ④卓球  
①1回戦 高崎0-3藤岡  
④1回戦 高崎1-3藤岡
- ①団体5位  
1回戦 高崎4-0富岡  
2回戦 高崎5-0沼田  
3回戦 高崎2-0渋川  
4回戦 高崎3-1農二  
5回戦 高崎0-1常磐  
個人Aブロック

- ④個人戦(ダブルス)  
岸・川原(3年)組 準優勝  
矢島(3年)・板橋(1年) ベスト8
- ⑦団体戦  
21回戦 高崎5-0太田商  
3回戦 高崎3-1伊勢崎東  
準々決勝 高崎2-3太田東  
個人戦(ダブルス)  
今井・板橋組 3位
- ⑧全国選抜大会県予選  
(インターハイ予選会  
上位8チーム参加)  
1回戦 高崎71-69太田  
準決勝 高崎56-96樹徳
- ④卓球  
①1回戦 高崎0-3藤岡  
④1回戦 高崎1-3藤岡
- ①団体5位  
1回戦 高崎4-0富岡  
2回戦 高崎5-0沼田  
3回戦 高崎2-0渋川  
4回戦 高崎3-1農二  
5回戦 高崎0-1常磐  
個人Aブロック

- ④個人戦(ダブルス)  
岸・川原(3年)組 準優勝  
矢島(3年)・板橋(1年) ベスト8
- ⑦団体戦  
21回戦 高崎5-0太田商  
3回戦 高崎3-1伊勢崎東  
準々決勝 高崎2-3太田東  
個人戦(ダブルス)  
今井・板橋組 3位
- ⑧全国選抜大会県予選  
(インターハイ予選会  
上位8チーム参加)  
1回戦 高崎71-69太田  
準決勝 高崎56-96樹徳
- ④卓球  
①1回戦 高崎0-3藤岡  
④1回戦 高崎1-3藤岡
- ①団体5位  
1回戦 高崎4-0富岡  
2回戦 高崎5-0沼田  
3回戦 高崎2-0渋川  
4回戦 高崎3-1農二  
5回戦 高崎0-1常磐  
個人Aブロック

- ④個人戦(ダブルス)  
岸・川原(3年)組 準優勝  
矢島(3年)・板橋(1年) ベスト8
- ⑦団体戦  
21回戦 高崎5-0太田商  
3回戦 高崎3-1伊勢崎東  
準々決勝 高崎2-3太田東  
個人戦(ダブルス)  
今井・板橋組 3位
- ⑧全国選抜大会県予選  
(インターハイ予選会  
上位8チーム参加)  
1回戦 高崎71-69太田  
準決勝 高崎56-96樹徳
- ④卓球  
①1回戦 高崎0-3藤岡  
④1回戦 高崎1-3藤岡
- ①団体5位  
1回戦 高崎4-0富岡  
2回戦 高崎5-0沼田  
3回戦 高崎2-0渋川  
4回戦 高崎3-1農二  
5回戦 高崎0-1常磐  
個人Aブロック

◇学芸部報告◇

新聞部、上毛新聞社主催・第六回  
高校新聞コンクールで知事賞受賞  
囲碁・将棋部、全国大会出場

△新聞部▽

上毛新聞社主催の第六回高校新聞コンクールにおいて、最高賞である知事賞を昨年に続いて受賞することができました。

今年には新聞製作の中心となるべき三年生部員の数が極端に少ないため、下級生を総動員した体制で臨まざるをえませんでした。高校に入学して日の浅い一年生までフルに使っての作業でしたので、過去にあまり経験したことのない試練やハプニングに遭遇したりしましたが、試行錯誤の末にようやく発行にこぎつけました。そんな「いわくつき」の新聞でしたので、本賞受賞には特別感慨深いものがあり、部員共々大変喜んでおります。

今後も慢心せず、格調高い新聞発行をめざして努力したいと思います。

(顧問 飯塚 光 69回)

△囲碁・将棋部▽

囲碁は、団体戦県予選に優勝し、全国大会に出場した。(三年連続三回目) 将棋では、加部信三郎(三年)が、全国高校将棋竜王戦県予選で優勝し、全国大会(於福岡市)では、一、二回戦を勝ち、ベスト16に進出した。

(囲碁将棋部顧問 茂木道弘 70回)



高高・前高定期戦

高高まさかの

二連敗

第46回

第46回高前定期戦。思えば今まで、激動の日々の連続であった。自分達の活動に対する、全校生徒の予想以上の反応に喜んだ日もあれば、練習出席率が悪かったり、自分達のやる事が空回りしたりして、頭を抱えた日もあった。しかし、昨年の先輩方、諸先生の温かい応援もあり、やっとのこと本

戦までこぎつけることができた。

当日、空は鮮やかに晴れわたり、秋風が心地よかった。開会式が終わり、競技が始まった。予想外の展開であった。高高は惜しいところて好機を逃し、苦い負け方をした試合が多かった。部対抗は奮闘してくれたが、一般対抗では前高に手も足も出ず、結果的には81対93と12点差で涙をのんだ。勝ちたかった。誰もが勝てると思って全力を尽くした。だが前橋の空っ風は強かった。今、僕は瞳を閉じ、もう一度様々なシーンを思い出す。試合には負けたが、自分を信じて最後まで戦った男達が、そこにはいた。

(定期戦実行委員長 中澤 伸二)

第46回高高・前高定期戦

| 部対抗 |    | 種目       | 一般対抗 |    |
|-----|----|----------|------|----|
| 高高  | 前高 |          | 高高   | 前高 |
|     |    | 水泳       | 3    | 6  |
|     |    | 綱引       | 0    | 9  |
|     |    | 玉入れ      | 3    | 6  |
|     |    | ソフトボール   | 3    | 6  |
|     |    | 駅伝       | 6    | 3  |
| 6   | 0  | 陸上競技     | 6    | 3  |
| 6   | 0  | バスケットボール | 4    | 5  |
| 6   | 0  | バレーボール   | 2    | 7  |
| 6   | 0  | 軟式庭球     | 3    | 6  |
| 0   | 6  | 卓球       | 3    | 6  |
| 0   | 6  | 硬式野球     |      |    |
| 6   | 0  | 軟式野球     |      |    |
| 0   | 6  | 剣道       |      |    |
| 6   | 0  | 柔道       |      |    |
| 0   | 6  | 空手       |      |    |
| 6   | 0  | 弓道       |      |    |
| 6   | 0  | テニス      |      |    |
| 0   | 6  | サッカー     |      |    |
| 0   | 6  | ラグビー     |      |    |
| 48  | 36 | 小計       | 33   | 57 |
| 高高  | 81 | 総合       | 93   | 前高 |

# 最近の 進学状況について

平成四年入試は、粘り強く取り組んだ生徒達の頑張り、きめ細かい指導を続けた担任の先生方の努力で、質と量の両面に画期的な成果をあげることができました。東大合格者数(現役15を含む16は2年連続県下でトップ)に、

また現役合格率66・2%に、真摯な努力が実っています。東北、東京工業、京都。私大では慶応、東京理科大学などにおいて、特に現役の健闘が目立ちました。

高上の自主・独立の伝統を大切にしつつ、はじめのある高校生活を送らせたい。授業を通して高上の三年間で第一志望校に合格できる学力を身につけさせたい。これが教職員一同の願いです。

す。今春の結果に安住することなく、さらなる高みを求め、常に挑戦する心を生徒に持たせたいと思います。大学合格はゴールではありません。新しい時代の担い手として、多様化する社会の中でより大きな自己実現を果たせるよう、学ぶことを大切に、自己を育て続けて欲しい。その為の確かな進路選択であって欲しいと願っています。

進路状況 (全日制) ( ) 内は現役

| 大学   | 年次 | 2年     | 3年     | 4年     | 大学   | 年次 | 2年      | 3年      | 4年      |
|------|----|--------|--------|--------|------|----|---------|---------|---------|
| 北海道  |    | 3(0)   | 14(5)  | 12(9)  | 青山学院 |    | 19(6)   | 18(7)   | 21(16)  |
| 東北   |    | 19(9)  | 21(17) | 31(27) | 学習院  |    | 9(2)    | 7(3)    | 10(9)   |
| 茨城   |    | 4(4)   | 2(1)   | 2(1)   | 慶応   |    | 34(17)  | 42(22)  | 54(43)  |
| 筑波   |    | 2(1)   | 5(5)   | 8(7)   | 国学院  |    | 8(2)    | 4(0)    | 5(1)    |
| 群馬   |    | 40(28) | 28(22) | 47(38) | 芝浦工業 |    | 4(3)    | 5(4)    | 10(10)  |
| 埼玉   |    | 13(6)  | 7(2)   | 7(7)   | 上智   |    | 5(4)    | 4(1)    | 16(11)  |
| 千葉   |    | 10(10) | 16(12) | 8(3)   | 成蹊   |    | 6(3)    | 6(0)    | 5(3)    |
| 東京   |    | 6(5)   | 13(7)  | 16(15) | 中央   |    | 23(4)   | 23(8)   | 35(18)  |
| 東京外語 |    | 2(2)   | 1(0)   | 4(3)   | 東京電機 |    | 8(1)    | 16(8)   | 11(5)   |
| 東京工業 |    | 6(4)   | 5(3)   | 9(8)   | 東京理科 |    | 26(15)  | 37(21)  | 56(36)  |
| 一橋   |    | 6(6)   | 1(0)   | 4(3)   | 東洋   |    | 12(1)   | 7(0)    | 13(4)   |
| 横浜国立 |    | 9(5)   | 10(5)  | 12(9)  | 日本   |    | 52(17)  | 66(27)  | 98(44)  |
| 新潟   |    | 6(4)   | 14(8)  | 12(10) | 法政   |    | 13(2)   | 20(3)   | 30(17)  |
| 金沢   |    | 6(3)   | 2(0)   | 9(7)   | 明治   |    | 49(15)  | 64(30)  | 56(22)  |
| 信州   |    | 7(3)   | 2(0)   | 5(2)   | 明治学院 |    | 15(1)   | 22(5)   | 24(6)   |
| 名古屋  |    | 3(2)   | 3(3)   | 2(0)   | 立教   |    | 8(3)    | 13(3)   | 12(3)   |
| 京都   |    | 2(1)   | 6(5)   | 7(6)   | 早稲田  |    | 57(30)  | 56(24)  | 55(24)  |
| 高崎経済 |    | 15(10) | 28(14) | 19(8)  | 同志社  |    | 8(0)    | 6(2)    | 7(2)    |
| 東京都立 |    | 7(3)   | 4(1)   | 2(0)   | 立命館  |    | 11(3)   | 12(2)   | 15(3)   |
| 横浜市立 |    | 6(4)   | 6(1)   | 6(5)   | その他  |    | 166(48) | 241(59) | 275(79) |

種別合計 (全日制) ( ) 内は現役

| 大学名                  | 2年       | 3年       | 4年        |
|----------------------|----------|----------|-----------|
| A 国立                 | 172(107) | 198(114) | 246(180)  |
| B 公立                 | 32(17)   | 41(16)   | 28(14)    |
| C 私立                 | 501(163) | 618(210) | 756(330)  |
| A + B + C            | 705(287) | 857(340) | 1030(524) |
| D 短大、各種他             | 11(5)    | 9(4)     | 7(5)      |
| 総数 (延数)              | 716(292) | 866(344) | 1037(529) |
| 卒業生数                 | 415      | 418      | 423       |
| 現役進学者数               | 200      | 218      | 276       |
| 現役合格率(合格者数/受験者数×100) | 48.8%    | 52.9%    | 66.2%     |

本校図書館の一面に翠巒文庫というコーナーがあります。これは本校の卒業生や、本校にゆかりのある方々が寄贈して下さった本を集めて展示し、在校生に利用させる場所です。

現在(平成四年十月三十一日)までに四百二十六冊の寄贈本がありました。本年寄贈していただきました書名と著者を次に記します。

書名 著者

上州の観音札所 内山 信次 42回

地球環境工学ハンドブック

システム社会学 黒沢 勝利 61回

乗野の賦 黒石 晋 76回

運るもの星とは呼びて 49期同窓会 49回

會長山田富二

教師のためのやさしい合唱編曲法 謙岐和家 43回

佐藤 茂 43回

白き雨(歌集) 土屋公平 48回

原 一雄 29回

卒業生の方々、著作等を、後輩のためにぜひ母校へ御寄贈下さい。先輩の著作に志気を鼓舞されています。

(図書館長・佐藤 照 53回)

● 翠巒文庫 ●

BOOK ●

## 平成3年度 同志会経常会計決算(案)

### 平成3年度 経常会計

| 収入の部 (平成3年1月1日～平成3年12月31日) |           |           |              |
|----------------------------|-----------|-----------|--------------|
| 費目                         | 平成3年度予算   | 平成3年度実収入  | 備考           |
| 前年度からの繰越金                  | 323,704   | 323,704   |              |
| 入会金                        | 850,000   | 844,000   | 全日制405 通信制17 |
| 維持会費                       | 5,500,000 | 5,753,000 | 2,268人       |
| 利息                         | 40,000    | 127,391   |              |
| 雑収入                        | 1,000     | 154,000   |              |
| 合計                         | 6,714,704 | 7,202,095 |              |

| 支出の部   |           |           |                    |
|--------|-----------|-----------|--------------------|
| 費目     | 平成3年度予算   | 平成3年度実支出  | 備考                 |
| 会議費    | 900,000   | 804,211   | 平成4年総会補助30万他       |
| 祝賀費    | 600,000   | 642,718   | ネクタイピン、証書ホルダー代等    |
| 饗別費    | 300,000   | 369,000   | 平成3年転退職員へ          |
| 慶弔費    | 100,000   | 125,000   | 葬儀花輪代等             |
| 通信印刷費  | 500,000   | 423,912   | 維持会費納入札状20万、宛名タック他 |
| 旅費     | 100,000   | 66,000    | 京浜同志会出席者等          |
| 会報発送費  | 1,300,000 | 1,186,128 | 会報発送郵送料            |
| 同志会報費  | 1,400,000 | 1,420,370 | 会報編集・印刷費           |
| 事務費    | 600,000   | 135,481   | 人件費、事務用品代他         |
| 同志会長賞費 | 100,000   | 40,830    | ガラス盾               |
| 補助費    | 600,000   | 600,000   | 図書館30万、翠楯体育会30万    |
| 雑費     | 50,000    | 35,960    | 返金等                |
| 予備費    | 164,704   | 0         |                    |
| 合計     | 6,714,704 | 5,849,610 |                    |

差引残高 1,352,485  
 100周年基金へ 1,000,000  
 次年度への繰越し 352,485

### 平成3年度特別会計

| 収入の部 |            |
|------|------------|
| 繰越金  | 10,412,697 |
| 利息   | 1,017,983  |
| 合計   | 11,430,680 |

| 支出の部 |  |
|------|--|
| なし   |  |

### 平成4年度 同志会経常会計予算(案)

| 収入の部 (平成4年1月1日～平成4年12月31日) |           |           |           |    |
|----------------------------|-----------|-----------|-----------|----|
| 費目                         | 平成3年度予算   | 平成4年度予算   | 前年比(増○減▽) | 備考 |
| 前年度からの繰越金                  | 323,704   | 352,485   |           |    |
| 入会金                        | 850,000   | 850,000   |           |    |
| 維持会費                       | 5,500,000 | 5,500,000 |           |    |
| 利息                         | 40,000    | 50,000    | ○ 10,000  |    |
| 雑収入                        | 1,000     | 1,000     |           |    |
| 合計                         | 6,214,704 | 6,753,485 |           |    |

| 支出の部   |           |           |           |    |
|--------|-----------|-----------|-----------|----|
| 費目     | 平成3年度予算   | 平成4年度予算   | 前年比(増○減▽) | 備考 |
| 会議費    | 900,000   | 900,000   |           |    |
| 祝賀費    | 600,000   | 700,000   | ○ 100,000 |    |
| 饗別費    | 300,000   | 300,000   |           |    |
| 慶弔費    | 100,000   | 100,000   |           |    |
| 通信印刷費  | 500,000   | 500,000   |           |    |
| 旅費     | 100,000   | 100,000   |           |    |
| 会報発送費  | 1,300,000 | 1,400,000 | ○ 100,000 |    |
| 同志会報費  | 1,400,000 | 1,500,000 | ○ 100,000 |    |
| 事務費    | 600,000   | 300,000   | ▽ 300,000 |    |
| 同志会長賞費 | 100,000   | 100,000   |           |    |
| 補助費    | 600,000   | 600,000   |           |    |
| 雑費     | 50,000    | 50,000    |           |    |
| 予備費    | 164,704   | 203,485   | ○ 38,781  |    |
| 合計     | 6,714,704 | 6,753,485 |           |    |

### 創立100周年準備基金予算(案)

|             |           |
|-------------|-----------|
| 繰入金         | 5,187,791 |
| 利息          | 330,980   |
| 平成3年度経常会計より | 1,000,000 |
| 合計          | 6,518,771 |

## 第91回高高同志会 新年総会へのお誘い

同志会の皆様、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、本年一月第六一期の皆様から明年の新年総会幹事のバトンタッチを受け、徐々にはあります準備が進んでいます。先輩諸兄の毎年の努力で年々盛況を極めてまいりました新年同志会も母校創立百周年へ向け既に十年を切る年になりました。本年も当番期一同全員が一丸となって努力し役目を果たしたいと頑張っております。

総会後の懇親会では旧友との過去を現在を未来を語りあって楽しい一時を過ごしていただきたいと念じております。

景気の後退が叫ばれている昨今ではありますが是非とも新年総会にご出席くださいますようお願い申し上げます。

期日 平成四年一月二三日(土)  
 時間 午後三時開会  
 場所 高崎ビューホテル  
 (22-1111)  
 会費 五〇〇〇円  
 (当番期62回代表 須藤敬文)

## ◆事務局だより

○同志会は会員各位の納入して下さる二千円の会費で運営されています。同封の振込用紙で納入して下さい。

よろしくお願ひ申し上げます。

○一九九二年(平成四年)版同志会名簿が刊行されました。お問ひ合わせにつきましましては、「高崎高等学校同志会名簿刊行委員会」(高崎市八千代町二一四一)が郵便にて行いますのでご承知おき下さい。

なお残部が少々ございますので、ご希望の方には送料を含めて四千五百円でおわけ致します。

また、類似の職業別名簿が本同志会とは全く関係のない業者で作成され、高額の料金で販売されているようですのでご注意ください。

## ◆編集後記

多くの方に多大なご協力をいただき、同志会報26号が発刊の運びとなりました。ご多忙の中、貴重な原稿をお寄せ下さいました皆様方に厚くお礼申し上げます。(本部幹事会)